民報サロン

資格取得から就職へ

永山　牧子

私がサービス管理責任者を務める就労移行支援事業所アフレッシュいわきの利用者である二十代男性Bさんのエピソードを紹介します。

Bさんは精神保健福祉手帳を所持しています。県外の大学を卒業した後に新卒として就職しましたが、その後、障がいがあることが判明しました。結果的に五カ月で仕事を退職し、本県に帰郷しました。その後、両親から開所したばかりのアフレッシュいわきに体験申し込みの相談があり、利用開始となりました。

さすが一度社会人を経験しただけあって、とにかく真面目でした。ややマイペースさがあるものの、個別訓練や集団プログラムでは積極的にスキルアップに励んでいました。しかし、本人の障がいの特性上、どうしても他者とコミュニケーションを取るのが苦手でした。「早く再就職がしたい」という希望を持っていましたが、まだまだ不安でした。他の利用者が帰宅した後に、コミュニケーション力を養う訓練を支援員とマンツーマンで行う毎日でした。それと並行して取り組んだのが、資格試験の勉強です。一人でも学習を進めることのできる資格試験対策プログラムは、Bさんに合っていました。

アフレッシュいわきは全国組織「一般社団法人社会福祉支援研究機構」に加盟しています。現在、機構には全国の就労移行支援事業所など七十九事業所が加盟しています。障がいのある人の就労支援にさまざまな強みがあり、そのうちの一つが「資格取得」です。現在、さまざまな民間資格から難関国家資格まで七十五資格にチャレンジできます。就労支援のために開発された独自の教育プログラムを利用すれば、楽しみながら資格取得を目指すことができます。自分がスキルアップできることで、今よりもっと自信をつけることができるのです。

Bさんは懸命な勉強のかいもあり、パソコンスキルを証明できる資格「P検」（ICTプロフィシエンシー検定試験）の二級を取得し、さらに色彩検定二級にも合格しました。そして二〇二一（令和三）年を迎えた頃、いよいよコミュニケーション能力もついてきました。Bさんから「本気で就職活動がしたい」と相談があり、これを受けて全面的に就職活動の支援を開始しました。そんな中、ある企業にBさんを実習で受け入れてもらえないかと依頼したところ、OKをもらいました。

Bさんは頑張りました。三日間の実習を真剣に取り組んだ結果、採用担当者から「ぜひ、入社してもらいたいのでBさんを説得してほしい」とまさかの逆オファーをいただきました。入社後は本人の努力もあって六カ月の職場定着を達成しました。今は定着継続としてBさんや上司の方とも定期的に訪問面談をしながら、得意分野や改善点を見つけられるよう努力しています。

自信をつけたBさんは「将来は起業したい」という壮大な目標を持つようになり、毎月の面談でその夢を語ってくれています。「もし社長になったら、ぜひ僕の右腕となってください」と私に言ってくれました。いつかそんな日が来ればうれしいな、と妄想する日々です。（いわき市明治団地、アフレッシュいわきサービス管理責任者）